



郡上のおどり閉幕 来年も踊りの輪で逢いまししょう

3年ぶりに開催された郡上の夏の風物詩「郡上おどり」、「白鳥おどり」、「白鳥の拝殿踊り」が閉幕しました。

郡上おどりは、通常31夜開催するところ、17夜に日数を縮小し、延べ7万2000人が来場しました。また、白鳥おどり・白鳥の拝殿踊りは、21夜の日程で開催され、白鳥おどりは、延べ1万3650人（9月24日変装おどりは含まず）、白鳥の拝殿踊りは、500人（9月25日は含まず）が来場しました。ウイズコロナでのおどり開催となった今シーズンは、来場者のみなさんに入場受付にて検温や手指消毒、入場パスの取得、

会場でのマスク着用など新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に協力をいただきましたながら実施されました。これら対策にあたっては、観光協会、商工会や関係地区など、多くの地元のみなさんに対応いただき、円滑な運営が行われました。来年こそは、制約のないかたちで、郡上のおどりが開催できることを願うと共に、今年の経験を生かし、アフター「コロナ」に即したおどりの開催を目指します。



入場ステッカー
（上）郡上おどり
（下）白鳥おどり



入場受付での感染症対策





郡上おどり保存会100周年記念事業

「これまで」と「これから」

記念式典

郡上おどり保存会創立100周年記念式典が7月9日(土)、郡上市総合文化センターで開催されました。本市や保存会と縁のある市町や団体の代表者、地域の関係者など約200名が出席しました。

式典では、郡上おどりの保存・継承に寄与した個人や団体に感謝状が贈呈されたほか、郡上ぶし歌詞募集の入選者表彰が行われました。また、郡上おどり保存会のこれまでの100年をスライドショーで振り返るとともに、郡上おどりの次世代の担い手となる郡上おどり保存会ジュニアクラブによる作文発表、会員13名によるお囃子と踊りが披露され、郡上おどりのこれからの100年に向けて、新たな一歩が踏み出されました。

記念講演会

がやがや会議

7月31日(日)には、「昭和ディスコグラフィOf郡上おどり」と題した記念講演会が開催

されました。講師には、八幡町出身で音楽ライター、音楽史家として活躍されている毛利眞人氏を迎えました。昭和の名人による正調郡上おどりから、大衆曲としてアレンジされた一風変わった郡上節まで、毛利氏が収集した貴重なSP盤レコードの音源を通じて、郡上おどりの歴史を辿りました。

講演会の後には、パネリスト6名によるパネルディスカッション「郡上おどりがやがや会議」も行われ、郡上おどりの課題などについて話し合いの場が設けられました。

当日の様子は、YouTubeにて公開中ですので、ぜひご覧ください。

郡上おどり保存会100周年記念事業では、今後も郡上おどりに対する意見や課題などを把握するためのアンケート調査を実施するほか、後継者不足や踊り屋形の老朽化など、郡上おどりが直面する課題解決に向けて、保存活用計画の策定が進められます。



記念式典でお囃子と踊りを披露する郡上おどり保存会ジュニアクラブ



レコードを紹介する毛利眞人氏



講演会・がやがや会議の様子はこちら
YouTubeチャンネル「Gujo Hachiman Tourism」